

スロバキアのブラチスラバ市でプロのバレエダンサーとして活躍する赤塚えりなさん。世界の舞台で活躍する彼女に、バレエにかける思いを伺いました。

スロバキア国立劇場バレエ団 ソリスト

赤塚えりなさん

あかつか・えりな 1990 (平成 2) 年生まれ。打越区出身。一小・一中卒業生

【略歴】

1992年 深浦バレエスタジオにて深浦洋子に師事

2007年-2009年 オーストラリアコンセルバトワールバレエに留学

2007年・2008年 ローザンヌ国際バレエコンクールにてセミファイナル進出

2009年-2011年 イングリッシュナショナルバレエスクールに留学。「ジゼル」より主役ジゼルを演じ各方面より絶賛される

2011年8月-現在 スロバキア国立劇場バレエ団に入団。「オデッセウス」、「ジゼル」、「ラ・シルフィード」、「パリの炎」よりグランパ・ド・ドゥ、ウラジミール・マラーホフ振付の「眠れる森の美女」より主役オーロラ姫、サファイアとルビーの精、「白鳥の湖」よりパ・ド・トロワと4羽の白鳥、「ラ・バヤデル」、「オネーギン」、「シンフォニーNo.2」

2013年-2017年 「くるみ割り人形」より主役クララ／金平糖の精を踊る

2015年 スロバキア国立劇場バレエ団、ソリストに昇格



「休日はヨーロッパ内を旅行するのが好きですね」と赤塚さん



師と慕うクリスティン・ウォルシュ先生 (右端) と赤塚さん (左から2人目)

Q バレエとの出会いは
A 2〜3歳頃、母が私の足をまっすぐにしたくて始めさせたとのこと。
Q バレエに真剣に向き合うようになったきっかけは
A クリスティン・ウォルシュ先生との出会いです。彼女を招いての試験を受けた結果、彼女が校長をしている学校に來ないかとお誘いいただいた上に、両親まで説得していただき、留学が決まりました。

Q 海外留学されて、困難だったことはありませんか
A オーストラリアに留学していた頃は、何もかもが新鮮でした。バレエ以外にも、コンテンポラリーダンスやジャズ、英語の授業。朝から夕方までバレエをして生活を送ること自体が初めての経験でした。イギリス留学中は英語で苦労しました。全ての教科が英語でしたので。特にバレエ

史では年に2回論文を書かなくてはいけなかったのが、すごく大変でした。
Q イングリッシュナショナルバレエスクール卒業後、スロバキア国立劇場バレエ団に入団されましたね
A 今まで以上に頑張らないといけないと思いました。ストーリーや感情を伝えられる方法を考え、先生に注意された事を直すのももちろん、舞台上に立つて踊り、演じれる事を楽しむ事ですね。自分が楽しんでないと、お客様も楽しんでいただけないと思います。
Q スロバキア国立劇場バレエ団での印象に残った舞台は
A 『ラ・シルフィード』で、主役のシルフィードを踊った公演はすごく印象的です。悲しい結末に、舞台上で本当に涙が出てくるほどです。また入団した頃の頃、公演中に人生で初めて顔から転んだ事は一生忘れません。



舞台後の1コマ。(前列左から2人目が赤塚さん)「海外では余り上下関係がなく、みんな本当にフレンドリーなんです」



赤塚さんとご家族 (左から2人目が赤塚さん)

Q 今後の目標などの展望はありますか
A ダンサーとしてもっと魅力的になりたい。踊りの幅を広げるためにもクラシックだけではなく、いろんなダンスに挑戦したいですね。

Q 7月30日には大牟田文化会館で踊られますね
A 小さい頃から通ってきた深浦バレエスタジオのみんなと踊れるのが楽しみです。生のバレエを見てほしいですね。

Q 大切にしている言葉・座右の銘はありますか
A 感謝ですね。留学する時、祖母に「みんなにちゃんとありがとうは伝えなさい」と言われたのを覚えています。日本にいた頃は母が毎日レッスンの送り迎えをしてくれましたし、家族みんなが支えてくれたことに感謝しています。

2歳の頃からお世話になっていて、深浦先生にもいろんな事を教わりました。今は、こうしてバレエを仕事にでき、外国の地でたくさんの方のチャンスをいただけることに感謝しています。